

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				平成	26	年度
事業番号	425	事業名	図書館管理費			
担当課	郡家図書館	担当係	郡家図書館			
総合計画に最も関連ある施策	施策	4	豊かな心を育み文化の薫るまちづくり	連絡先	72-6660	
	施策体系	2	社会教育の充実	事業区分	□新規	
	主な事業	図書館整備による生涯学習の充実			■継続	
予算区分	款	9	教育費	事業実施主体	■八頭町	
	項	4	社会教育費		□その他	
	目	3	図書館費	計画期間	開始	—
	事業	425	図書館管理費		終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 八頭町民					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 地域の文化・情報の拠点施設として、町民に必要な様々な情報を提供し、すべての人に文化的で潤いのある生活を保障する。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載。 「いつでも、どこでも、だれでも」図書の貸し出しを行うことにより地域の課題解決に向け、必要な資料や情報を提供する。					
事業の手段	どうする方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 図書館の資料を幅広く提供し町民に役立つ、利用しやすい図書館として積極的な生涯学習の推進を図っていく。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 豊かな心を育むべく、生涯学習の場として図書館の利用者数が増加する。					
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	社会教育法、図書館法

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし						
	A	千円	新刊図書の購入						
	B	回	公共施設及び地域の施設への団体貸出						
	C	回	移動図書館車による遠隔地の巡回サービス						
	D								
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし						
	A	人	図書館の年間の利用者数						
	B	冊	住民一人当たりの貸出数(貸出密度)をみる(貸出数/人口)						
	C	冊	登録者一人当たりの貸出冊数(貸出数/登録者数)						
	D	人	図書館利用者の登録状況を見る						

4 コスト

区分		単位	23年度	24年度	25年度		26年度		27年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	千円	1,000	3,249	3,000	2,999	3,000	3,000	3,000
	B	回	12	12	12	12	12	12	12
	C	回	183	183	185	185	184	182	187
	D								
成果指標	A	人	27,999	28,623	28,560	29,246	29,100	28,083	29,300
	B	冊	6.66	6.97	6.90	7.19	6.99	7.02	7.28
	C	冊	19.09	18.90	17.71	18.31	17.00	16.79	17.00
	D	人	6,555	6,885	7,170	7,222	7,530	7,554	7,900
トータルコスト		千円	19,195	22,222	34,133	33,988	34,092	33,814	34,361
担当職員数		人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
職員人件費		千円	8,200	8,200	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費		千円	10,995	14,022	26,133	25,988	26,092	25,814	26,361
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円							
	県支出金(交付金・補助金)	千円		275					
	地方債(借入金)	千円							
	事業収入(使用料・参加費等)	千円							
	一般財源(単町費)	千円	10,995	13,747	26,133	25,988	26,092	25,814	26,361

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 26 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に) 学校と連携を図りながら図書館サービスの充実を図るとともに、各種事業を展開した。子どもの読書離れが危惧されるため、平成27年度から5年間の「八頭町子どもの読書活動推進計画」を策定した。保育所への読み聞かせや定例おはなし会などの開催、ブックスタート、ブックセカンド、ブックサードを行い図書館利用を促進した。 くらしと仕事を支援する講座等を開催し、魅力ある図書館づくりを進めた。
	成果(具体的に) 児童書、絵本等54,034冊を貸出を行い、全体貸出冊数の約43%を占め、子どもたちへの利用を図った。おはなし会、ブックスタート、町内の全保育所への配本を実施し、新規登録者332人の内約半数が子どもの登録で占めた。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	活字離れが進む中、文学などの読書活動が必要であり、また、知識の習得に貢献している。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	直営で行わないと、本の貸借だけで終わってしまい、独自の事業の展開、学校への支援、連携ができなくなり利用者も減少すると考える。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	町内に3館あり、地域の利便性があり、密接な関係が保たれている。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	地域の情報発信の拠点であり、町民への新しい情報を提供する必要がある。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	おはなし会、保育所への読み聞かせ、各図書館の事業開催により利用者の増加に繋がっていると考えるが、少子高齢化が進むなか成果が目に見えてこない。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	79	各種事業による参加者等は増え、成果は上がっているが、利用者の数値に反映できていない。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	評価点による判定	
	4、見直しの上縮小する	40～49点	2	
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	地域文化・情報の拠点施設としての図書館は、利用しやすく、生涯学習の場としても重要な役割を担っている。また若年層には活字・書籍離れが進む中、読書活動や本絵の親しみが重要となってきています。そのため、幅広い対象者の利用を促すため、各種ブック事業や配本を行い、親しみのある身近な図書館として利用者の増加を確保する事業展開により、潤いのある生活を目指す必要がある。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 事業の実施を拡充し利用者を増やしたいが、中学校の統合などにより地域での図書館の利用方法を考えなければならない。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 現行のやり方を継続し、地域に密接した新規事業を取り入れ新規利用者を増やすよう展開する。